

1. 単元で取り上げる指導事項を確認する。

① 年間指導計画等を基に、本単元で取り上げる指導事項を確認しましょう。

② 当該単元で指導する指導事項について、学習指導要領解説のページを開いて、具体的な内容や系統性を確認しましょう。

例えば、第3学年及び第4学年「読むことウ」では、学習指導要領解説を読んで確認すると、「**目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること**」の中で、「**文章の内容を正確に把握した上で、元の文章の構成や表現をそのまま生かしたり自分の言葉を用いたりして文章の内容を短くまとめる**」力を身に付けさせることが必要であると確認できます。



③ 育成を目指す資質・能力に関する児童の実態や既習事項を確認しましょう。

2. 単元の目標と言語活動を設定する。

① 単元の目標を設定しましょう。

確認した本単元の指導事項と当該学年の「学びに向かう力、人間性等」の目標から単元の目標を設定します。



(1) 「知識及び技能」の目標
(2) 「思考力、判断力、表現力等」の目標

基本的に指導事項の文末を「～できるようにする。」として示す。

(3) 「学びに向かう力、人間性等」の目標

いずれの単元においても、当該学年の「学びに向かう力、人間性等」の目標に示されている「言葉が持つ価値～思いや考えを伝え合おうとする。」までを示し、文末は「～するようにする。」として示す。

② 言語活動を設定しましょう。

言語活動例を参考に目標を実現するために適した言語活動を設定します。この時に併せて行う必要があるのが「**学習者の視点に立った教材研究**」です。児童の実態に応じ、教科書を含めた素材をどのように教材化した、どのような手段(言語活動等)によって資質・能力を育成するのかが重要です。

また、実際に言語活動を教師が行ってみて、資質・能力の育成が図られるかを確認することも大切です。



<素材研究にチャレンジ！>

○素材研究とは…素材自体がもっている特徴を明らかにすること。

【例】「世界にほころ和紙」(「国語4下はばたき」(光村図書))

○どのような文章構造になっているか
・「はじめ」(①②) 「中」(③～⑨) 「おわり」(⑩)
・「中」は③～⑥と⑦～⑨に分かれる

○要約のポイントとなる中心となる文と具体例
・筆者の考え…より多くの人に和紙を使って欲しい。
・和紙のよさ…>やぶれにくくなかもちする特徴(よさ)がある
>わたしたちは和紙の風合いを美しいと感じ、自分の気持ちを表す方法の1つとして選んできた

*素材の特徴を生かし、指導事項を身に付けさせるためには、どのような言語活動が必要か？

(言語活動) 伝統文化について調べて分かったことをもとに、自分の考えを伝えよう。

3. 単元の評価規準を設定する。

<評価規準作成のポイント>

○「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の評価規準作成のポイント

- ・基本的に、当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項について、その**文末を「～している。」として、評価規準を作成する。**
- ・育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて評価規準を作成することもある。
- ・「思考・判断・表現」の評価規準については、その冒頭に、当該単元で指導する一領域について、「(領域名)において」と明記する。

○「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準作成のポイント

- ・「粘り強さを発揮してほしい内容と自らの学習を調整しようとする側面の双方を適切に評価できる評価規準を作成する。
- ・次の①～④の内容を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて、その組合せを工夫して作成する。〔①粘り強さ ②自らの学習の調整 ③他の2観点において重点とする内容 ④当該単元の言語活動〕

作成例

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主語と述語の関係、修飾と被修飾の関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(1)カ)	「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(C)1ウ)	粘り強く、文章を読んで理解したことに基づいて、考えをもち、学習課題に沿って、まとめたことを伝えようとしている。

4. 「指導と評価の計画」を作成する。単元の指導計画(例)

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	・学習のねらいや進め方を捉え、学習の見通しをもつ。	・地域の伝統や文化について、資料を基に考えたことを、ALITに伝えることを知らせる。	
2 3 4	・「世界にほころ和紙」を読み、文章構成と内容を把握する。	・文章構成について、図を使って構造的に捉えさせる。 ・文章構成をもとに、筆者の考えと、その理由が書かれている段落を確認させる。 ・例文を参考に、中心となる語や文と、例として挙げられている部分を読み分けさせる。	[知・技] ノート ・段落の役割を理解するとともに、段落相互の関係を整理している。 [思・判・表] ノート ・中心となる語や文を選んで表に整理している。
5	・筆者の考えが伝わるように、気を付けながら文章全体を要約する。	・整理した中心となる語や文を使って、200字程度で要約させる。	[思・判・表] ワークシート ・中心となる言語や文を使って要約している。

「指導と評価の計画」を作成する際には、主たる学習活動の流れに沿って、**どの時間に何を評価するかを整理**します。

このとき、評価する内容は、「単元の評価規準」に対応していることが重要です。評価方法についても、評価する内容をそれぞれ評価するために、どのような方法で評価するかを確認しておきましょう。

また、児童全員の学習状況を記録に残す場面の精選するとともに、単元の目標の達成状況を確認するために、「指導と評価の計画」を立てることが重要であることをご確認ください。

5. 単元の評価計画をもとに、本時の評価規準を具体的に定める

「指導と評価の計画」を基に、「Bと判断する児童」について、具体的な姿を想定し、本時の評価規準を設定しましょう。

<評価規準の具体例> 第4時

例文を参考にしながら、各まとまりの「中心となる語や文」を、筆者が「例としてあげている部分」と区別して捉え、表に整理している。

早わかり！単元計画の作成手順

～小学校 社会 第4学年
「廃棄物を処理する事業」を例にして～

1. 指導内容(指導事項)を確認する・・・「学習指導要領解説」を読みましょう！

○指導すべき内容を指導者が分かっていなければ、子どもに力をつけることはできません。
○この単元については、「学習指導要領」に、下のような指導内容が示されています。
○アは、知識及び技能です。イは、思考力、判断力、表現力等です。



(2) 人々の健康や生活環境を支える事業について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(イ) 廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解すること。

(ウ) 見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(イ) 処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、廃棄物の処理のための事業の様子を捉え、その事業が果たす役割を考え、表現すること。

※「学びに向かう力、人間性等」については、学習指導要領において、内容のまとまりごとに示されていません。よって、該当学年の目標の(3)を確認します。

[第4学年]

(3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

2. 単元の目標を設定する・・・・・・単元でどんな力をつけるのか明確にしましょう！

○指導内容をしっかり理解した上で、単元の目標を設定します。
○4つの要素を踏まえ、以下のように単元の目標を表します。



4つの要素

- ① 単元において中心となる学習対象
- ② 単元において重視する「知識及び技能」⇒アの(イ)と(ウ)を踏まえる
- ③ 単元において重視する「思考力、判断力、表現力等」⇒イの(イ)を踏まえる
- ④ 単元において重視する「学びに向かう力、人間性等」⇒〔第4学年〕1目標の(3)を踏まえる

「廃棄物を処理する事業」について、

処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、

見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、

廃棄物の処理のための事業の様子を捉え、その事業の果たす役割を考え、表現することを通して、

廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解できるようにするとともに、

主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に地域社会の一員として自分たちが協力できることを考えようとする態度を養う。

3. 単元の評価規準を設定する・・・評価のための判断のよりどころを決めましょう！

○社会では、学習指導要領の記述形式と評価規準のフォーマットが下のように連動しています。



- (1) **A**について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識や技能を身に付けること
- (ア) **B**を理解すること
- (イ) **C**などで調べて、**D**(などに)まとめること
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること
- (ア) **E**などに着目して、**F**を捉え、**G**を考え、表現すること

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① E などについて C などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、 F を理解している。 ② 調べたことを D や文などにまとめ、 B を理解している。	① E などに着目して、問いを見だし、 F について考え表現している。 ② O と O を(比較・関連付け、総合など)して G を考えたり、学習したことを基に 社会への関わり方 を選択・判断したりして、適切に表現している。	① A (に関する事項)について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ② よりよい 社会を考え、学習したことを社会生活に生かそう としている。

○フォーマットに沿って、学習指導要領にあるA～Gの内容を当てはめます。
※Dの内容がない場合は、学習指導要領解説にある記述を参考にして記述します。

○「社会への関わり方」と「よりよい社会を考え、～生かそうとしている。」の箇所は、学習指導要領にある「内容の取扱い」の記述を参考にして、より具体的に記述します。

○「OとOを」の箇所は、学習指導要領解説にある記述を参考にして記述します。



知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① E 処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などについて C 見学・調査したり地図などの資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、 F 廃棄物の処理のための事業の様子を理解している。 ② 調べたことを 白地図や図表、文 などにまとめ、 B 廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。	① E 処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、問いを見だし、 F 廃棄物の処理のための事業の様子について考え表現している。 ② ごみや下水などの廃棄物を処理する仕組みや人々の協力関係と地域の良好な生活環境 を関連付けて G 廃棄物の処理のための事業が果たす役割を考えたり、学習したことを基にごみの減量や水を汚さない工夫など、自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして、適切に表現している。	① A 廃棄物を処理する事業について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ② 学習したことを基にごみの減量や水を汚さない工夫など、自分たちが協力できることを考えよう としている。

○上表には、6つの評価規準があります。次に、この6つを単元の指導計画に従って分配していきます。



4. 指導と評価の計画を作成する

- 単元の評価計画を単元の展開計画と合わせて作成していきます。
- 全10時間の中で、何時間目にどの観点のどの評価規準について、どのような方法で評価するのか、計画を立てます。



単元の指導計画（例）第4学年社会科「廃棄物を処理する事業」

※ゴシック文字は、評価したことを記録に残す場面

時	学習活動	評価規準	評価の方法
1	○家や学校等から出るたくさんのごみの行方について話し合い、学習問題をつくる。	<思考・判断・表現の①> 処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、問いを見だし、廃棄物の処理のための事業の様子について考え表現している。	【発言分析】【記述分析】 発言内容やノートの記述内容から「処理の仕組みや再利用などに着目して、問いを見だしているか」を評価する。
2	○学習問題の解決に向けて予想や学習計画を立てる。	<主体的に学習に取り組む態度の①> 廃棄物を処理する事業について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。	【発言分析】【記述分析】 発言内容、ノートの記述内容や学習計画表から「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。
(中略)			
9	○学習問題について調べたことや話し合ったことに基づいて、ごみの処理の仕組みや経路、人々の協力関係などについて図や文にまとめる。	<知識・技能の②> 調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。	【記述分析】 ノートの記述内容から「廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、それらは生活環境の維持と向上に役立っていることを理解しているか」を評価する。
10	○様々な立場からごみを減らすための呼びかけをしていることについて話し合い、ごみを減らすために自分たちにできることは何かを考え、発表し合う。 ○ごみを減らすために自分たちにできることについてノートに自分なりの考えをまとめる。	<思考・判断・表現の②> ごみや下水などの廃棄物を処理する仕組みや人々の協力関係と地域の良好な生活環境を関連付けて廃棄物の処理のための事業が果たす役割を考えたり、学習したことを基に、ごみの減量や水を汚さない工夫など、自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして表現している。 <主体的に学習に取り組む態度の②> 学習したことを基にごみの減量や水を汚さない工夫など、自分たちが協力できることを考えようとしている。	【記述分析】【発言分析】 ノートの記述内容や発言内容から「学習したことを基に、ごみを減らすために、自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして表現しているか」を評価する。 【記述分析】 ノートの記述内容から「単元の学習を振り返り、ごみを減らすために、自分たちが協力できることを考えようとしているか」を評価する。

5. 単元の指導計画(指導と評価の計画)をもとに、本時の評価規準を具体的にする

【単元の評価計画にある第9時の評価規準】

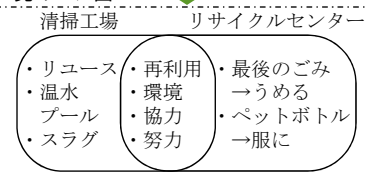
調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。

【具体的にした第9時の評価規準】

↓ 具体的にする

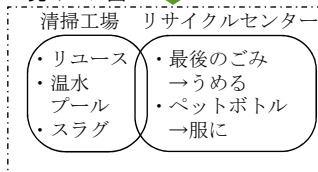
清掃工場とリサイクルセンターについて、取組とその共通点についてベン図に整理し文でまとめ、廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。

B児のベン図



「おおむね満足できる状況」と評価

C児のベン図



「努力を要する状況」と評価

具体的な支援

2つの施設で聞いたインタビュー内容に着目させ、資源の有効活用や環境面への配慮等の共通点を見いだすよう支援を行う。

早わかり！ 単元計画の作成手順

～小学校 算数 第6学年「角柱及び円柱の体積」を例にして～

算数

1. 指導内容(指導事項)を確認する ……「学習指導要領解説」を読みましょう！

- 指導すべき内容を指導者が分かっていなければ、子どもに力をつけることはできません。
- 「学習指導要領解説」には、下のように指導内容が示されています。
- アは、知識及び技能です。イは、思考力、判断力、表現力等です。



立体図形の体積に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

- (7) 基本的な角柱及び円柱の体積の計算による求め方について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

- (7) 図形を構成する要素に着目し、基本図形の体積の求め方を見いだすとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導くこと。

※解説書には、学びに向かう力、人間性等については、直接的には示されていません。

該当学年の目標の欄に、記載されている事柄を参考に作成する。

2. 単元の目標を設定する ……単元でどんな力をつけるのか明確にしましょう！

- 算数科の当該学年の学年目標と内容のまとまりで示された内容をもとに、必要な記述を抜き出して単元の目標を設定します。
- (1)が知識及び技能。(2)が思考力、判断力、表現力等。(3)学びに向かう力、人間性等です。



- (1) 角柱や円柱の体積の計算による求め方について理解し、角柱や円柱、複合図形の体積を公式を用いて求めることができる。
- (2) 図形を構成する要素に着目し、直方体や立方体の体積の求め方を基に、角柱や円柱の体積の求め方を見いだすとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導くことができる。
- (3) 直方体や立方体の体積の求め方を基に考えると角柱や円柱の体積を求めることができるというよきに気付き、角柱や円柱の体積を求めようとしたり、見いだした求積方法や式表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高めようとしたりしている。

3. 単元の評価規準を設定する ……評価のための判断のよりどころを決めよう！

算数では、下のような評価規準のフォーマットが示されています。



知識・技能 ・文末を「～している」「～できる」として、評価規準を作成する。	思考・判断・表現 ・文末を「～している」として、評価規準を作成する。	主体的に学習に取り組む態度 ・文末を「～している」として、評価規準を作成する。
--	---------------------------------------	--

指導内容を確認しながら、フォーマットに則って設定します。

知識・技能 ① 角柱や円柱の体積について、直方体や立方体の場合の体積の求め方を基にして、計算によって求めることができることを理解している。 ② 角柱や円柱の体積は、(底面積)×(高さ)で求めることができることを理解し、角柱や円柱の体積を求めることができる。	思考・判断・表現 ① 角柱、円柱の体積の求め方について、図形を構成する要素などに着目して、既習の直方体、立方体の体積の求め方を基にした図形の面積の学習と関連付けたりして考えている。 ② 体積の求め方を振り返り、式からどんな角柱も円柱も、(底面積)×(高さ)で求めることができることに気付き、公式として捉え直している。	主体的に学習に取り組む態度 ① 角柱、円柱の体積を求める公式をつくる際に、簡潔かつ的確な表現に高めようとしている。 ② 底面積と高さが分かれば、公式に当てはめることで角柱や円柱の体積を求めることができるよきに気付いている。 ③ 角柱、円柱の体積の求め方を、進んで生活や学習に活用しようとしている。
--	--	---

○上表には、7つの評価規準があります。次に、この7つを単元の指導計画に従って分配していきます。



4. 単元の評価計画を作成する

- 単元の評価計画を単元の展開計画と合わせて作成していきます。
- 全5時間の中で、何時間目にどの観点のどの評価規準について、どのような方法で評価するのか計画を立てます。



単元の指導計画(例) 小学校第6学年「角柱及び円柱の体積」 ◎…記録に残す評価

時	学習活動	本時の評価規準	評価方法
1	四角柱の体積の求め方を、直方体の体積の求め方を基に類推し図や式を用いて考える。	<p><思考・判断・表現①> 角柱、円柱の体積の求め方について、図形を構成する要素などに着目して、既習の直方体、立方体の体積の求め方を基にした図形の面積の学習と関連付けたりして考えている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度①> 角柱、円柱の体積を求める公式をつくる際に、簡潔かつ的確な表現に高めようとしている。</p>	<p>【行動観察】 四角柱の体積の求め方を既習事項と関連付けて考えているかを評価する。</p> <p>【行動観察】 四角柱の体積を求める式を底面積を使って見直そうとしているかを評価する。</p>
2	三角柱の体積の求め方を考え、これまでの体積の求め方を振り返り、角柱の体積を求める公式を導き出す。	<p><知識・技能①> 角柱や円柱の体積について、立方体や直方体の場合の体積の求め方を基にして、計算によって求めることができることを理解している。</p> <p>◎<思考・判断・表現①> 角柱、円柱の体積の求め方について、図形を構成する要素などに着目して、既習の直方体、立方体の体積の求め方を基にした図形の面積の学習と関連付けたりして考えている。</p>	<p>【行動観察】 角柱の体積を、公式を用いて求めることができるかを評価する。</p> <p>【ノート分析】 三角柱の体積も、底面積×高さで求めることができる理由を記述できているかを評価する。</p>
3	円柱の体積の求め方を考え、角柱、円柱の体積を求める公式をまとめる。	<p><知識・技能②> 角柱や円柱の体積は、(底面積)×(高さ)で求めることができることを理解し、角柱や円柱の体積を求めることができる。</p>	<p>【行動観察】 柱体の体積を、公式を用いて求めることができるかを評価する。</p>
4	直方体を組み合わせた図形の体積の求め方を、底面に着目して考える。	<p>◎<思考・判断・表現②> 体積の求め方を振り返り、式からどんな角柱も円柱も、(底面積)×(高さ)で求めることができることに気付き、公式として捉え直している。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度②> 底面積と高さが分かれば、公式に当てはめることで角柱や円柱の体積を求めることができるよきに気付いている。</p>	<p>【ノート分析】 直方体を組み合わせた立体の体積も、底面積×高さで求めることができる理由を記述できているかを評価する。</p> <p>【行動観察】 直方体を組み合わせた立体の体積も公式を使って求められることよきに気付いているかを評価する。</p>
5	単元全体の学習内容についての定着を確認する。(単元末テスト)	<p>◎<知識・技能②> 角柱や円柱の体積は、(底面積)×(高さ)で求めることができることを理解し、角柱や円柱の体積を求めることができる。</p> <p>◎<主体的に学習に取り組む態度③> 角柱、円柱の体積の求め方を、進んで生活や学習に活用しようとしている。</p>	<p>【単元末テスト】 柱体の体積を、公式を用いて求めることができるかを評価する。</p> <p>【単元末テスト】 生活や学習に活用しようとしているかを評価する。</p>

5. 単元の評価計画をもとに、本時の評価規準を具体的に示す

第4時の評価規準【具体的に表記】

直方体を組み合わせた立体を角柱とみることで、その体積も、(底面積)×(高さ)で求めることができることに気付き、その求め方を説明している。

直方体を組み合わせた図形の体積を、どの面を底面にして考え、既習の公式を用いて求めたのかを記述している。

「おおむね満足できる状況」と評価

立体を分けて体積を求める方法しか理解できない。どの面を底面にすればよいか気付くことができない。

「努力を要する状況」と評価

新大分スタンダードの視点「習熟の程度に応じた指導」

立体模型を使うなどして、底面を視覚的にとらえられるようにして、(底面積)×(高さ)で体積を求めることができることを理解できるように支援を行なう。

早わかり！単元計画の作成手順 ～小学校 理科 第3学年 「太陽と地面の様子」を例にして～

理科

1. 指導内容(指導事項)を確認する ……「学習指導要領解説」を読みましょう！

- 指導すべき内容を指導者が分かっていなければ、子どもに力をつけることはできません。
- 「学習指導要領解説」には、下のように指導内容が示されています。
- アは、知識及び技能です。イは、思考力、判断力、表現力等です。



太陽と地面の様子との関係について、日なたと日陰の様子に着目して、それらと比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

<p>ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 日陰は太陽の光を遮るとでき、日陰の位置は太陽の位置の変化によって変わる。</p> <p>(イ) 地面は太陽によって暖められ、日なたと日陰では地面の暖かさや湿り気に違いがあること。</p>	<p>イ 日なたと日陰の様子について追究する中で、差異点や共通点を基に、太陽と地面の様子との関係についての問題を見だし、表現すること。</p>	<p>※解説書には、学びに向かう力、人間性等については、直接的には示されていません。</p> <p>該当学年の目標の欄に、記載されている事柄を参考に作成する。</p>
--	---	---

2. 単元の目標を設定する ……単元でどんな力をつけるのか明確にしましょう！

- 指導内容をしっかり理解した上で、単元の目標を設定します。
- 2行目が知識及び技能です。3行目が思考力、判断力、表現力等と学びに向かう力、人間性等です。



日なたと日陰の様子に着目して、それらと比較しながら、太陽の位置と地面の様子を調べる活動を通して、それらについての理解を図り、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主に差異点や共通点を基に、問題を見いだす力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。

3. 単元の評価規準を設定する ……評価のための判断のよりどころを決めよう！

理科では、下のような評価規準のフォーマットが示されています。



知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・(ア)を理解している。 ・(イ)を理解している。 ・(A)について、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(A)について、差異点や共通点を基に、問題を見出し、表現するなどして問題解決している。 ・(A)について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(A)についての事象・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 ・(A)について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

指導内容を確認しながら、フォーマットに則って設定します。



知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①日陰は太陽の光を遮るとでき、日陰の位置は太陽の位置の変化によって変わることを理解している。</p> <p>②地面は太陽によって暖められ、日なたと日陰では地面の暖かさや湿り気に違いがあることを理解している。</p> <p>③太陽と地面の様子との関係について、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。</p>	<p>①太陽と地面の様子との関係について、差異点や共通点を基に、問題を見出し、表現するなどして問題解決している。</p> <p>②太陽と地面の様子との関係について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。</p>	<p>①太陽と地面の様子との関係についての事象・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしている。</p> <p>②太陽と地面の様子との関係について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。</p>

○上表には、7つの評価規準があります。次に、この7つを単元の指導計画に従って分配していきます。



4. 指導と評価の計画を作成する

- 単元の評価計画を単元の展開計画と合わせて作成していきます。
- 全11時間の中で、何時間目にどの観点のどの評価規準について、どのような方法で評価するのか計画を立てます。



単元の指導計画(例) 小学校3学年の理科「太陽と地面の様子」

時	学習活動	評価規準	評価の方法
1	○屋外に出て影の写真を撮り、撮影した写真を比較し、問題を見出す。	<思考・判断・表現の①> 太陽と地面の様子との関係について、差異点や共通点を基に、問題を見出している。	【記述分析】 問題を見出せているかを確認する。
2	○問題を設定する 【問題】かげはどのようなところまでできるのだろうか。	<知識・技能の③> 太陽と地面の様子との関係について、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。	【記録分析】 影の形や長さ、向きなどを分かりやすく記録しているかを確認する。
3	○影ふみを午前と午後の2回回り、時間を変えて行った影ふみの写真を比較し、自分なりの問題を見出す。 ○どのようにしたら影ふみがより上手にできるか話し合う。	<思考・判断・表現の①> 太陽と地面の様子との関係について、差異点や共通点を基に、問題を見出し、表現している。	【発言分析】 【記述分析】 問題を見出し、表現しているかを確認する。
(中略)			
10	○これまで学習したことをまとめ、影ふみのコツを考え、「かげふみブック」を作成する。	<知識・技能の①と②> ①日陰は太陽の光を遮るとでき、日陰の位置は太陽の位置の変化によって変わることを理解している。 ②地面は太陽によって暖められ、日なたと日陰では地面の暖かさや湿り気に違いがあることを理解している。	【記述分析】 ①と②を、これまでの学習とつなげて理解しているかを確認する。
11	○作成した「かげふみブック」を参考に、再度影ふみをする。 ○「かげふみブック」を見直す。	<主体的に学習に取り組む態度の②> 太陽と地面の様子との関係について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。	【行動観察】 【記述分析】 学習や生活に生かそうとしているかを確認する。

5. 単元の指導計画(指導と評価の計画)をもとに、本時の評価規準を具体的に作る

【単元の評価計画にある第3時の評価規準】

太陽と地面の様子との関係について、差異点や共通点を基に、問題を見出し、表現している。

具体的に作る

【具体的にした第3時の評価規準】

2回の影踏みを通して、時刻による影の位置の違いに着目して、問題を記述したり、疑問を感じたりしている。

A児
「かげの位置は、時間によって変わっているのだろうか」

「おおむね満足できる状況」と評価

B児
「木がゆれたら、かげもゆれるのか」

「努力を要する状況」と評価

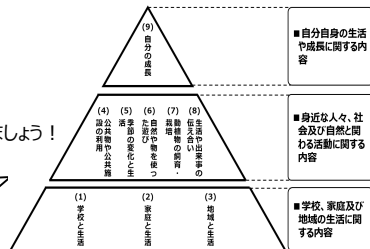
- 評価計画に設定したものを、そのまま活用する場合がありますが、子どもの学習状況をつかむには、より具体化することが大切です。
- B児は、時刻による影の位置の違いに着目していません。だから、適切な支援が必要なのです。



もう一度写真を比較させ、2枚の写真から差異点や共通点を基に問題を見いだすよう支援を行う。

早わかり！ 単元計画の作成手順

～小学校生活科 第2学年 「うごくおもちゃけんきゅうじょ」を例にして～



1. 指導内容（指導事項）を確認する → 学習指導要領で確認しましょう！

生活科の内容は（１）～（９）があり、それぞれの内容は「具体的な活動や体験」+「資質・能力の三つの柱」で記載されています。内容の構成を理解することが大切です。

例：内容（６）自然や物を使った遊び
身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、→ 具体的な活動や体験
遊びや遊びに使う物を工夫してつくりことができ、→ 思考力、判断力、表現力等の基礎
その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、→ 知識及び技能の基礎
みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。→ 学びに向かう力、人間性等

2. 単元の目標を作成する → 具体的な活動や体験と、資質・能力の三つの柱を構造的に示します！

- (1) 単元を構成する内容について、学習指導要領に示された記載事項を確認する。例：内容（6）
身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくりことができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。
- ↓
身近にある材料を利用して動くおもちゃをつくる活動を中心的な活動として、単元の目標を作成します。
- (2) (1)と具体的な学習対象や活動に即して、単元の目標を作成する。
身の回りにある材料を利用して動くおもちゃを作ったり、遊んだりする活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくりことができ、その面白さや見えない力の不思議さに気付くとともに、みんなで協力して遊びを楽しもうとするようにする。

3. 単元の評価規準を作成する

- (1) 単元の目標を確認する。
- (2) 単元の目標に示された資質・能力を踏まえ、単元の評価規準を作成する。
- (3) 学習指導要領解説において、各内容に示された資質・能力の記載事項を確認するとともに、「具体的な内容のまとまりごとの評価規準」を参考に、小単元の評価規準を作成する。

学習指導要領解説生活編には、それぞれの内容について、「Aという資質・能力は、Bということである」というように、具体的な記載事項が示されています。



【単元の評価規準】

評価観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	身の回りにある材料を利用して動くおもちゃを作ったり、遊んだりする活動を通して、その面白さや見えない力の不思議さに気付いている。	身の回りにある材料を利用して動くおもちゃを作ったり、遊んだりする活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつづけている。	身の回りにある材料を利用して動くおもちゃを作ったり、遊んだりする活動を通して、みんなで協力して遊びを楽しもうとしている。
小単元における評価規準	1 ① 身近にある材料を利用して、動くおもちゃを作って遊べることに 気付いている 。	① 楽しみたい遊びを 思い描き ながら、おもちゃ作りや遊びに使う物を選んでいる。	① 自分の関心のあるおもちゃを見つけ、 楽しく遊ぼう としている。 ② 動くおもちゃ作りに関心を持ち、 粘り強く おもちゃを作ろうとしている。
	2 ② 遊びの楽しさや遊びを工夫したり遊びを創り出したりする面白さに 気付いている 。	② 友だちと比べたり、試したりしながら動くおもちゃを工夫して作っている。 ③ 友だちと相談したり、遊びを 工夫したり しながらおもちゃを作っている。	③ “よく”動くおもちゃへの思いや願いをもち、友達のよさを取り入れたり自分の違いを生かしたりして、おもちゃを作ろうとしている。
	3 ③ みんなで楽しく遊ぶ際、道具や用具の準備や片付け、掃除、整理整頓をしている。	④ おもちゃ広場の約束やルールを工夫しながら遊んでいる。	④ 友だちと関わりながら、みんなで楽しく遊ぼうとしている。

4. 指導と評価の計画を作成する

- 全18時間の授業の中で、11の評価規準をどのように分配していくのか計画します。
- 単元の評価計画を、単元の指導計画と合わせて作成していきます。
- 指導と評価の計画は、いつ、どの小単元で、どの資質・能力を、どのような評価規準をもとに見取るか、について表しています。

生活



【指導と評価の計画（全18時間）】

小単元名	学習活動	評価規準	評価方法
1 動くおもちゃを作って遊んでみよう。（6時間）	○教師が用意した動くおもちゃで遊んでみる。遊んだおもちゃの中から、自分が作ってみたいおもちゃを選ぶ。遊んだ感想や、作りたいおもちゃについてかく。 ○作りたいおもちゃの設計図を作る。 ○設計図をもとにおもちゃを作る。作ったおもちゃで遊んでみる。最後に「“もっと”〇〇したい」という願いをもてるようにする。	態① 思① 態② 知①	行動観察 発言分析 研究ファイル（設計図、研究日記）
2 もっと動くように。（6時間）	○自分が作った動くおもちゃで遊んだり、友だちと一緒に試したりしながら、“よく”動くようにするために、自分の動くおもちゃを改良していく活動をしていく。 ○自分のおもちゃの工夫や困りを出し合い、よく動くおもちゃと比べたり、アドバイスし合ったりして、自分なりの改良の見通しをもつ。 ○おもちゃを改良しルールを作って遊んだり、さらに“よく”動くように改良したりする。 ○自分が作ったおもちゃの不思議や発見、面白さや楽しさなどを出し合い友だちと交流し合う。	態③ 思② 思③ 知②	行動観察・発言分析 発言分析・研究ファイル 行動観察・研究ファイル 発言分析・研究ファイル
3 作ったおもちゃを紹介したり、一緒に遊んだりしよう。（6時間）	○おもちゃを使った遊びやルールを工夫して、友だちと楽しく遊ぶ活動を行う。 ○グループごとに、ルールを決め必要なものを考え、おもちゃ広場の準備をする。 ○おもちゃ広場で遊ぶ。 ○「動くおもちゃ研究所」の学習を振り返って、思ったことや考えたことを交流し合う。	態④ 思④ 知③	行動観察 発言分析・行動観察 研究ファイル

5. 単元の指導計画（指導と評価の計画）をもとに、本時の評価規準を具体的に作る

第8時の学習活動においては、思考・判断・表現の評価規準を以下のように設定したうえで、その評価規準における**具体的な児童の姿**を想定し、評価を行っています。



第8時の評価規準 「友だちと比べたり、試したりしながら動くおもちゃを工夫して作っている。」

具体的に作る

発言分析や研究ファイルによって評価

具体的な児童の姿（例）

- ・材料の大きさや重さなどの違いでおもちゃの動きがかわるかどうかを試している。
- ・風の力で動かすおもちゃが速く動くように、うちわのおおぎかたや風の当たる場所や広さを変えている。など

A児の姿

「おもちゃがはやく動くようになるためには、風が当たるところを広くして、風がよくあたるようにうちわをおおぐといいよ。車がおもいと早く動かさないから、かるいざいりようをつかうといいよ。」

「十分満足できる状況」と評価

B児の姿

「Cさんのおもちゃは、車のタイヤの部分に同じ大きさのキャップをつけているよ。ぼくの車のタイヤは大きさがちがっているよ。」

同じ大きさのペットボトルキャップを使ってタイヤにする姿

「おおむね満足できる状況」と評価

早わかり！ 題材計画の作成手順

～ 小学校 音楽 第4学年
「A表現・歌唱」を例にして～

音楽

1. 指導内容を確認しよう！

本題材で扱う学習指導要領の内容：歌唱ア・イ・ウ(イ)、[共通事項](1)

ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。**思**
イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付くこと。**知**
ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。**技**

(イ)呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能 [共通事項](1)**思**

ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。
本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「旋律」、「強弱」、「呼びかけとこたえ」

■ 学習指導要領：歌唱のウでは、「技能」について(ア)～(ウ)の3つの指導事項が示されています。
■ 本題材の指導のねらいに応じて、一つ以上を扱うようにしましょう。*1

*1 小学校学習指導要領解説音楽編p.117より

■ [共通事項]では、思考・判断のよりどころとなる要素を精選して設定します。

2. 題材の目標を設定しよう！ 題材名 旋律の特徴を生かして歌おう

- (1)「とんび」の曲想と音楽の構造との関わりなどについて気付くとともに、思いや意図に合った音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。**知技**
- (2)「とんび」の旋律、強弱、呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。**思**
- (3)旋律の特徴を生かして歌う学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら進んで歌唱の学習活動に取り組む。**学**

■ 題材の目標は、育成を目指す資質・能力の3つの柱に基づいて、それぞれ設定します。

■ 「題材名」は、題材に身に付けさせたい資質・能力を踏まえて、学習内容や学習活動が想起できる内容を設定しましょう。*単に、教材名を書くものではありません。

3. 題材の評価規準を設定しよう！

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 「とんび」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに気付いている。</p> <p>技 思いや意図に合った音楽表現で「とんび」を歌うために必要な、呼吸に気を付けて、自然で無理のない歌い方を身に付けて歌っている。</p>	<p>思① 「とんび」の旋律、強弱、呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えている。</p> <p>思② 聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりから、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>態 「とんび」の旋律の特徴を生かして歌う学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら進んで歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>■ 「題材名」がしっかりとできていると、題材の目標や評価規準にも使えるね！</p>

■ 表現領域では、「知識」「技能」を分けて設定します。

■ 思考・判断のよりどころとなる要素は、題材の目標や評価規準などに共通して設定します。要素の数は、精選しましょう。

■ なお、鑑賞領域では「技能」は指導しないため設定しません。
※「知識」のみ設定します。

■ 「思考・判断・表現」では、思考①「主として知覚感受について」、思考②「主として思いや意図について」に分けて設定すると、評価がしやすくなります。

4. 指導と評価の計画を作成しよう！！

題材全体の学習指導		評価の位置付け		
時	主な学習内容	評価の観点と主な評価の対象		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	<ul style="list-style-type: none"> 「とんび」の歌詞の表す様子や旋律の特徴を捉える。 「とんび」の曲の特徴を捉えて表現を工夫する。 		思①	
2	<ul style="list-style-type: none"> 「とんび」の「旋律、強弱、呼びかけとこたえ」をよりどころにし、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付く。 気付いたことを生かして音楽表現を工夫し、思いや意図をもつ。 	知	思②	
3	<ul style="list-style-type: none"> 前時のまでの学習を生かして、思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸に気を付けて、自然で無理のない歌い方を身に付けて歌う。 	技		態

■ 記載している評価の計画は、全員の学習状況を記録に残す場面なんだね。
■ この例では、「主体的に学習に取り組む態度」の評価を3時に位置付け、1時から3時までの状況を総括的に評価するんだね。

5. 題材の指導計画をもとに、本時の評価規準を具体化しよう

第2時：思考・判断・表現②の評価規準

- 聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりから、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。

具体的にした第2時：思考・判断・表現②の評価規準

- 9小節～12小節の「ピンヨロ～」の歌唱表現について、「**旋律**」の特徴（「**呼びかけとこたえ**」）から「**強弱**」を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えをもっている。

「おおむね満足できる状況」と評価

- とんびが鳴きながら近付さ、その後去って行く様子を表したいから、最初の2小節は *f* で、後半の2小節は *p* で歌おう。

「努力を要する状況」と評価

- 歌詞が表す情景を意識せずに、ただ単に大きな声で歌っている。

■ 努力を要する児童には、とんびが飛んでいる様子について、「遠くかな？近くかな？」など想像力を膨らませてあげましょう。

6. 音楽活動を通して学習を深めよう！

- 音楽科は、音楽活動を通して学習を深めていく教科です。
- 日々の授業は、「音楽発－音楽着」となるような構成で行ないましょう。

音楽発

音楽着

音楽発

1. 導入
 - 合唱を行ない、前時の学習を振り返るとともに、本時のめあてから学習の見通しをもつ。

2. 展開

- 自分たちの歌声から、曲にふさわしい歌唱表現を追究する。* 言語活動と合唱活動の往還

3. まとめ

- 合唱を行ない、曲にふさわしい歌唱表現を実現できたか振り返る。

音楽着

早わかり！題材計画の作成手順

～小学校 図画工作 第3学年 「のこぎりザクザク生まれる形」を例にして～

図工

1. 指導内容(指導事項)を確認する

- ①本題材が、どの内容のまとまりに該当するかを確認
- ②指導内容と評価の観点との関連を確認

知識 技能 思考・判断・表現

「A表現」(1)イ
 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けることや、表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えること。

「A表現」(2)イ
 絵や立体、工作に表す活動を通して、材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。

「B鑑賞」(1)ア
 身近にある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や身近な美術作品、製作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。

〔共通事項〕(1)
 ア自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付くこと。
 イ形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。

2. 題材の目標を設定する

- ①指導内容を基に題材の目標を作成(文末を「～させる」等指導者の立場で、題材に合った文言に変える等)



- 【知識及び技能】
- ・自分の感覚や行為を通して、形や色などの組合せによる感じなどが分かるようにする。
 - ・木やのこぎりを適切に使わせるとともに、前学年までの木や接着剤などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】
- ・木を切ったり組み合わせたりして感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色などを生かしながら、どのように表すかについて考えさせる。
 - ・自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げさせる。
 - ・形や色などの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもたせる。
- 【学びに向かう力、人間性等】
- ・進んで木を切ったり組み合わせたりして立体に表したり鑑賞したりする活動に取り組みせ、つくりだす喜びを味わわせるとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造できるよう指導する。

3. 題材の評価規準を設定する(文末を「～している」や「～しようとしている」に変える)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 自分の感覚や行為を通して、形や色などの組合せによる感じなどが分かっている。</p> <p>技 木やのこぎりを適切に使うとともに、前学年までの木や接着剤などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。</p>	<p>発 形や色などの組合せによる感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、木を切ったり組み合わせたりして感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。</p> <p>鑑 形や色などの組合せによる感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。</p>	<p>態 つくりだす喜びを味わい進んで木を切ったり組み合わせたりして立体に表したり、鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。</p>

児童に資質・能力を確実に身に付させるために「指導内容」、「題材の目標」、「題材の評価規準」を一貫したものにします。

※ **発** 発想や構想に関する評価規準 **鑑** 鑑賞の能力に関する評価規準

4. 題材の指導と評価の計画を作成する(例) 小学校図画工作第3学年「のこぎりザクザク生まれる形」

時	ねらい・学習活動	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	評価の方法
		知識	技能	発想や構想	鑑賞		
1	<ul style="list-style-type: none"> ・のこぎりの使い方を知り、木をいろいろな長さや形に工夫して切る。 ・のこぎりを適切に扱う。 		技				【観察】
2						態	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・切った(木片)を並べたり組み合わせたりしながら、表したいことを見付け、どのように表すかについて考える。 			発			【観察】 【対話】 【作品】
4				発			
5	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに木を切って組み合わせるなどしながら、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。 ・作品カードに自分の作品のよさや面白さ、表し方の工夫などについて書く。 	知	技				【観察】 【対話】 【作品】
6					鑑	態	

※ 児童の学習状況を把握して指導に生かす。 全員の学習状況を把握し、記録に残す。

5. 題材の指導計画(指導と評価の計画)をもとに、本時の評価規準を具体的に定める

第3時の評価規準「思考・判断・表現(発想や構想の能力)」を例に

形や色などの組合せによる感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、木を切ったり組み合わせたりして感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。

↓
具体的に定める

題材の評価規準をそのまま活用する場合がありますが、子どもの学習状況をつかむには、より具体化することが大切です。



木片の形や木目の方向、模様や色などの組合せによる感じなどを基に、様々な形の木を切ったり組み合わせ直したりして、立ち上がってきたイメージに近づけるために、どのように表すかについて考えている。

【B児童】
 角ばった形の木片を集め、大きな塊の周りにくっつけている。木目の方向を気にしながら、長い木片をどこに組み合わせるかを考えている。

「おおむね満足できる状況」と評価

【C児童】
 同じ形の木片を机上にならべて楽しんでいる。

「努力を要する状況」と評価



○C生徒は、発想の段階で様々な形を組み合わせることに理解できていない可能性がある。それに伴って、表したことが十分に立ち上がっていないことが予想される。

木材を切って様々な形の材料を準備させる。いろんな角度から見ながら、積み上げたり接着したりさせて、形の組合せを楽しむ経験を積ませる。

題材指導計画の作成手順 ~小学校家庭科 B衣食住の生活を例にして~

1. 指導内容(指導事項)を確認する ……「学習指導要領解説」を読みましょう!

- 家庭科では、学習指導要領の各項目に示される指導内容を指導単位にまとめて組織して**題材**を構成し、教科目標の実現を目指しています。
- 「学習指導要領解説」のP100~103に、指導内容が示されています。
- 「ア」は知識及び技能、「イ」は思考力・判断力・表現力等です。



(例) B衣食住の生活
次の(1)から(6)までの項目について、課題をもって、健康・快適・安全で豊かな食生活、衣生活、住生活について考え、工夫する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 食事の役割
ア 食事の役割が分かり、日常の食事の大切さと食事の仕方について理解すること。

イ 楽しく食べるために日常の食事の仕方を考え、工夫すること。

「学びに向かう力、人間性等」については、内容には示されていないので、家庭科の目標(3)に示されていることを参考にします。

2. 題材の目標を設定する ……題材でどんな力をつけるのか明確にしましょう!

- 学習指導要領に示された教科の目標並びに題材で指導する項目及び指導事項を踏まえて設定します。
- 2学年間を見通した題材配列と指導内容を参照し、指導事項の関連を図ります。



【例】題材名 おいしく作ろう 伝統的な日常食 ごはんとみそ汁(第5学年)

- (1) 食事の役割と食事の大切さ、我が国の伝統的な配膳、伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方について理解するとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。【知識及び技能】
- (2) おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理計画や調理の仕方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 家族の一員として、生活をよりよくしようと、食事の役割、伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとする態度を育てる。【学びに向かう力、人間性等】

3. 題材の評価規準を設定する ……評価のための判断のよりどころを決めよう!

- 「内容のまとめりごとの評価規準(例)」から題材において指導する項目及び指導事項に関する部分を抜き出し、評価の観点ごとに整理・統合、具体化するなどして作成します。



知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 食事の役割が分かり、日常の食事の大切さについて理解している。 ・調理に必要な材料の分量や手順が分かり、調理計画について理解している。 ・我が国の伝統的な配膳の仕方について理解しているとともに、適切にできる。	おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理計画や調理の仕方について問題を発見して課題を設定し、 ③ 様々な解決方法を考え、 ④ 実践を評価・改善し、 ⑤ 考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族の一員として、生活をよりよくしようと、食事の役割、 ⑥ 伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、 ⑦ 生活を工夫し、実践しようとしている。
② 伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方を理解しているとともに、適切にできる。		

4. 指導と評価の計画を作成する

学習活動に応じて題材の評価規準を具体化したものを指導と評価の計画に記載します。

題材の指導と評価の計画(例) (全10時間) おいしく作ろう 伝統的な日常食 ごはんとみそ汁(第5学年)

小 題 材	時 間	学習活動	評価規準 ◆評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自分の食事を見つめよう	1	<ul style="list-style-type: none"> ● 日常の食事を振り返り、食事の役割について話し合う。 ● 外国の食卓と日本の食卓の写真を比較し、米飯とみそ汁を日常的に食べている理由や米飯とみそ汁のよさについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 食事の役割が分かり、日常の食事の大切さについて理解している。 ◆学習カード *ペーパーテスト ・米飯及びみそ汁が我が国の伝統的な日常食であることを理解している。 ◆学習カード 	<ul style="list-style-type: none"> ①~⑦の番号は、題材の評価規準の番号に対応しています。 	
家族と食べるおいしいごはんをオリジナルみそ汁を作ろう	7	<ul style="list-style-type: none"> ● オリジナルみそ汁の条件を確認し、材料の分量、実の組み合わせや切り方を考える。 <p>実の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 加熱して柔らかくする必要のあるもの ■ 香りを大切にすもの ■ 温めるだけでよいもの <ul style="list-style-type: none"> ● 調理台や加熱用調理器具の効率のよい使い方を確認し、各自が試し作りの調理計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> * 前時の行動観察や確認テストの結果を指導に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ③ おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理計画について考え、工夫している。 ◆調理計画・実践記録表 	<ul style="list-style-type: none"> ⑥ 伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 ◆ポートフォリオ ◆調理計画・実践記録表 ◆行動観察
	8・9	<ul style="list-style-type: none"> ● 各自が調理計画に基づき、実習する(2人1組で実践交流し、相互評価する)。 ● 気づいたことを実践記録表に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ② みそ汁の調理に必要な材料の分量や計量、調理の仕方について理解しているとともに、適切にできる。 ◆行動観察 ◆調理計画・実践記録表 	<ul style="list-style-type: none"> ④ おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理計画や調理の仕方について、実践を評価したり、改善したりしている。 ◆調理計画・実践記録表 	<ul style="list-style-type: none"> ⑦ 伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方について工夫し、実践しようとしている。 ◆ポートフォリオ ◆調理計画・実践記録表 ◆行動観察
	10	<ul style="list-style-type: none"> ● 実習を振り返り、ペアで改善点を確認する。 ● 家庭で米飯とオリジナルみそ汁を一人で調理することを想定し、できあがりの時間を考え、調理計画を立てる。 ● グループで交流し、調理計画を改善する。 		<ul style="list-style-type: none"> ⑤ おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理計画や調理の仕方についての課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している。 ◆行動観察 	

5. 題材の指導と評価の計画をもとに、本時の評価規準を設定する

- 本時の評価規準は、題材の指導と評価の計画に設定したものを、そのまま使用します。
- 努力を要する生徒への手立てを想定しておくことが大切です。



評価の観点	おおむね満足できる(B)	努力を要する生徒への手立て
思考・判断・表現	おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理計画や調理の仕方についての課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している。	友達の考えを参考にしよう促したり、調理計画や調理の仕方を一緒に確認するなど、個に応じた指導をする。

早わかり！ 単元計画の作成手順

～小学校 体育 第3学年
ゴール型ゲーム「タグラグビー」を例にして～

体育

1. 指導内容(指導事項)を確認する ……「学習指導要領解説」を読みましょう！

- 指導すべき内容を指導者が分かっていなければ、子どもに力をつけることはできません。
- 「学習指導要領解説」には、下のように指導内容が示されています。
- (1)は、知識及び技能です。(2)は、思考力、判断力、表現力等です。(3)は、学びに向かう力、人間性等です。



ゲームについて、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
(1) 次の運動の楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、易しいゲームをすること。 ア ゴール型ゲームでは、基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをすること。	(2) 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えること。	(3) 運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすること。

2. 単元の目標を設定する ……単元でどんな力をつけるのか明確にしましょう！

- 上記の指導内容をもとに、必要な記述を抜き出して単元の目標を設定します。
- (1)が知識及び技能、(2)が思考力、判断力、表現力等、(3)が学びに向かう力、人間性等です。
- 単元の目標の語尾は、「～することができるようにする」と表記します。



- (1) ゴール型ゲーム(タグラグビー)の行い方を知るとともに、基本的なボール操作とボールを持たない動きによって、易しいゲームをすることができるようにする。
- (2) 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。
- (3) 運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動したり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。

3. 単元の評価規準を設定する ……評価のための判断のよりどころを決めよう！

体育では、下のような評価規準のフォーマットが示されています。



知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・知識の文末を「～している」、技能の文末を「～できる」として、評価規準を作成する。	・文末を「～している」として、評価規準を作成する。	・安全の文末を「～している」、安全以外の文末を「～しようとしている」として、評価規準を作成する。

指導内容の例示を確認しながら、フォーマットに則って設定します。



知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①タグラグビーの行い方について、言ったり書いたりしている。 ②ボールを持ったときにゴールに体を向けることができる。 ③味方にボールを手渡したり、パスを出したり、ゴールにボールを持ち込んだりすることができる。	①攻めを行いやすいようにするなどの規則を選んでいる。 ②ボールを持っている人とボールを持っていない人の役割を踏まえた作戦を選んでいる。 ③パスを出したり、ゴールにボールを持ち込んだりするときの工夫を友達に伝えている。	①ゲームに進んで取り組もうとしている。 ②規則を守り、誰とでも仲よくしようとしている。 ③用具などの準備や片付けを、友達と一緒にしようとしている。 ④ゲームの勝敗を受け入れようとしている。 ⑤友達の考えを認めようとしている。 ⑥場や用具の安全を確かめている。

○上表には、12この評価規準があります。次に、この12こを単元の指導計画に従って分配していきます。



4. 指導と評価の計画を作成する

- 単元の評価計画を単元の展開計画と合わせて作成していきます。
- 全8時間の中で、何時間目までの観点のどの評価規準について、どのような方法で評価するのか計画を立てます。
- 1時間に行う評価の数は、1～2つに設定します。2つ評価する場合は、評価方法を別にするのが有効です。



単元の指導計画(例) 小学校3学年体育 ゴール型ゲーム「タグラグビー」

時間	1	2	3	4	5	6	7	8
ねらい	学習の進め方の見直しをもつ。	基本的なボール操作を身に付け、ルールを覚えて取り組む。			チームに合った簡単な作戦を選んで取り組む。			タグラグビー大会
学習活動	1 学習内容と本時のねらいの確認 ・1時間の流れと・規則を確認。 2 試しのゲーム ・作戦を選び、役割分担を行う。 3 整理運動・振り返り・片付け	1 用具や場の準備、準備運動 2 本時のねらいの確認 3 補強運動 ・基本的なボール操作を身に付ける。 4 ゲーム① ※全て易しいゲーム ・ゲームのルールを覚える。 5 チームの話し合い及びチーム練習 6 ゲーム② ・話し合ったことを実行したり、ルールを意識したりして取り組む。 7 整理運動・振り返り・片付け ・チームの工夫やよさについて発表したり、学習カードに記入したりする場を設ける。			1 用具や場の準備、準備運動 2 本時のねらいの確認 3 補強運動 ・チームで作戦の動きを確認する。 4 ゲーム① ・作戦を選んでゲームをする。 5 チームの話し合い及びチーム練習 6 ゲーム② ・話し合ったことを実行したり、作戦を振り返ったりして取り組む。 7 整理運動・振り返り・片付け ・チームの工夫やよさについて発表したり、学習カードに記入したりする場を設ける。			1 用具や場の準備、準備運動 2 本時のねらいの確認 3 タグラグビー大会 4 整理運動・振り返り・片付け
	知		① (カード)		② (観察)	③ (観察・ICT)		
	思			① (カード)			② (カード)	③ (観察・ICT)
態	① (観察)	⑥ (観察)	② (観察)	③ (カード)	⑤ (カード)			④ (観察)

※知…「知識・技能」、思…「思考・判断・表現」、態…「主体的に学習に取り組む態度」

5. 本時の評価規準をもとに、「十分満足できる状況」や「努力を要する状況」を想定する

【単元の評価計画にある第5時の評価規準(知識・技能)】 = 【具体的にした第5時の評価規準】

味方にボールを手渡したり、パスを出したり、ゴールにボールを持ち込んだりすることができる。

体育は、具体的にしたものを単元の評価規準として設定しているので、基本的に再設定は行いません。



A児	B児	C児
「味方が捕りやすいパスをしたり、トライしたりを何度も繰り返すことができる。」	「味方にボールをパスしたり、トライしたりすることができる。」	「ボールを誰もいないところに放り投げたり、トライしたりすることができていない。」
「十分満足できる状況」と評価	「おおむね満足できる状況」と評価(評価規準)	「努力を要する状況」と評価

○評価規準を設定する場合、指導内容の例示を参考にします。子どもの実態を把握し、どのレベルを評価規準(B)とするかが大切です。
○C児は、タグラグビーの基本的なボール操作(パスを出す、パスをもらう、トライする)等ができていません。だから、適切な支援が必要となります。



仲間を見てからボールの手渡しやパスをしたり、ボールを持つ人のすぐ後ろについてもらったりするような声かけ・練習の支援を行う。

早わかり！単元計画の作成手順

～小学校 外国語科 第5学年
We Can! 1 Unit 5 を例にして～

外国語

本資料で例示する単元：We Can! 1, Unit 5 「She can run fast. He can sing well.」

各教科書会社の関連単元：

- Junior SUNSHINE 5 (開隆堂), Lesson 4 「Can you do this?」
- NEW HORIZON Elementary English Course 5 (東京書籍), Unit 4 「He can bake bread well.」
- ONE WORLD Smiles 5 (教育出版), Lesson 5 「I can run fast.」



p.58

1. 指導する領域別目標を確認する・・・「学習指導要領」を読みましょう！

- 外国語活動では「聞くこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」の3つ、外国語科では「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の5つが、領域別目標として設定されています。
- 指導すべき内容の領域別目標を指導者が分かっているなければ、子どもに力をつけることはできません。
- 「学習指導要領」には、外国語科において、下のように領域別目標が示されています。

聞くこと	イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。
読むこと	イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。
話すこと [発表]	イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
書くこと	ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。

2. 単元の目標を設定する・・・単元でどんな力をつけるのか明確にしましょう！

- 領域別目標をしっかり理解した上で、単元の目標を設定します。
- 各学校が設定する学習到達目標(CAN-DOリスト)をもとに、英語を用いて何ができるようにするのかをあらかじめ明らかにします。

相手に自分や第三者のことをよく知ってもらうために、できることやできないことなどについて聞いたり、自分の考えや気持ちを含めて話したりすることができます。また、文字には音があることに気付くとともに、アルファベットの大文字・小文字を活字体で書くことができるようにする。

本単元では、記録に残す評価は「話すこと[発表]」のみとしています。「聞くこと」「読むこと」「書くこと」については、目標に向けての指導を行い、本単元以降で記録に残す評価を実施します。どの単元で、どの領域についての記録に残す評価を実施するのかを考え、計画的な評価を行うことが大切です。

3. 単元の評価規準を設定する・・・評価のための判断のよりどころを決めよう！

外国語科では、下のような評価規準のフォーマットが示されています。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識> 【言語材料】について理解している。 <技能> 【事柄・話題】について、【言語材料】などを用いて、【内容】を話す技能を身に付けている。	【目的等】に応じ、【事柄・話題】について、簡単な語句や基本的な表現を用いて【内容】を話している。	【目的等】に応じ、【事柄・話題】について、簡単な語句や基本的な表現を用いて【内容】を話そうとしている。

指導内容を確認しながら、フォーマットに則って設定します。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識> I/He/She can ～. Can you ～?など、自分や相手、第三者ができることやできないことを表す表現やその尋ね方、答え方について理解している。 <技能> 自分や相手、第三者ができることやできないことについて、I/He/She can ～. Can you ～?などの表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを含めて話す技能を身に付けている。	相手に自分や第三者のことをよく知ってもらうために、自分や相手、第三者ができることやできないことなどについて、自分の考えや気持ちなどを含めて話している。 外国語活動・外国語科では、思考・判断・表現と主体的に学習に取り組む態度には深い関わりがあることから、文末を太字下線部のように対の形で示し、両者を一体的に評価することができるとしています。	相手に自分や第三者のことをよく知ってもらうために、自分や相手、第三者ができることやできないことなどについて、自分の考えや気持ちなどを含めて話そうとしている。

4. 指導と評価の計画を作成する

- 単元の評価規準では「知識・技能」を分けていますが、理解した「知識」を使うことができる「技能」として、1時間の授業において両者を一体的に評価することができます。
- 単元末に進むにつれて、評価規準を、単元で目指す児童の姿へと近づけていきます。

単元の指導計画(例) 5年 We Can! 1, Unit 5 「She can run fast.He can sing well.」

時	学習活動	評価規準	評価の方法
1	○ 動作を表す語や「できる」「できない」という表現を理解する。	<知識・技能> 動作を表す語や、できることやできないことを表す表現について、聞いたり言ったりしている。	【行動観察】
2	○ 動作を表す語やあることができるかどうかについて、聞いたり話したりする。 ○ アルファベットの文字を活字体で書く。	<知識・技能> 動作を表す語や、できることやできないことを表す表現について、正しく聞き取っている。	【記述分析】
3	○ あること(スポーツ、趣味、特技等)ができるかどうかを友だち(ペア)で尋ね合う。 ○ アルファベットの文字を活字体で書く。	<知識・技能> スポーツ、趣味、特技等ができるかどうかを尋ねたり答えたりしている。	【記述分析】
4	○ あること(スポーツ、趣味、特技等)ができるかどうかを、学級の友だちと尋ね合う。 ○ アルファベットの文字を活字体で書く。	★<知識・技能> スポーツ、趣味、特技等ができるかどうかを尋ねたり答えたりしている。	【行動観察】 【記述分析】
5	○ 第三者ができることやできないことについて話を聞く。 ○ アルファベットの文字の読み方には、名称のほかに音があることに気付く。	<知識・技能> 第三者を紹介するためのHe/Sheを使った表現について、正しく聞き取っている。	【記述分析】
6	○ 第三者についてできることやできないことを話す。 ○ アルファベットの文字の読み方には、名称のほかに音があることに気付くとともに、アルファベットの活字体を書く。	★<知識・技能> 友だちについて、He/She can ～. He/She can't ～.などの表現を用いて、できることやできないことを話している。	【行動観察】
7 8	○ 自分や身近な先生のことをよく知ってもらうために、できることやできないことなどについてインタビューを行い、自分の考えや気持ちも含めて友達に紹介する。 ・第7時：ペアの相手を替えながらグループ内で話し、アドバイスをし合って次時に向けて改善を図る。 ・第8時：学級全体の前でスピーチをする。 ○ アルファベットの文字を見て、その音とその音で始まる動物を言う。	★<思考・判断・表現> ≪自分や身近な先生のことをよく知ってもらうために、できることやできないことなどについて、自分の考えや気持ちなどを含めて≫話している。 <主体的に学習に取り組む態度> ≪同上≫話そうとしている。 ★は、記録に残す評価を行うことを示しています。	【行動観察】

5. 単元の指導計画(指導と評価の計画)をもとに、本時の評価規準を具体的に作る

【具体的にした第7・8時の評価規準 <思考・判断・表現>】

インタビュー結果をもとに、スポーツや趣味、特技など、先生ができることやできないことについて、自分のことや感想も含めて友だちに発表している。

【B児】
Hello, Hori sensei, this is Hori sensei.
He can run fast. ... Nice, I, ... I can't run fast.
He can swim. I can't swim. I don't like swim. I don't like sports. Thank you.

【C児】
Hello. Okada sensei, Okada sensei. (似顔絵を指しながら)
She can ... tennis. Nice! Tennis, OK. Good. (ジェスチャーを付け、ガッツポーズもしながら)
She ... can ... swim. I can ... swim. Yes, swim! (OKのマークを手で示しながら)

「おおむね満足できる状況」と評価

「努力を要する状況」と評価

Small Talk等で児童にCan you ～?と尋ね、答えに応じて指導者がI can(can't)～. と自分のことを加えて言い、児童が何度も聞く機会を設ける。

- 評価計画に設定したものを、そのまま活用する場合もありますが、子どもの学習状況をつかむには、より具体化することが大切です。
- C児は、自分や第三者のことを何とか伝えようとしています。しかし、既習の表現を適切に用いて、先生ができることやできないこと、自分のことや感想を含めて話していません。だから、適切な支援が必要なのです。
- 授業中の評価に加え、学期に1回程度のパフォーマンス評価において、総合的な評価を行うことも考えられます。

早わかり！ 道徳科の授業 作成手順 ～内容項目「規則の尊重」 「雨のバス停留所」を例にして～

道徳科

1. 指導内容(内容項目)を確認し、ねらいを検討する……学習指導要領解説を読む



該当の学年だけでなく、小学校低学年から中学校までを見通して、内容項目についての理解を深め、ねらいとする道徳的価値について、授業者の明確な考えをもちましょう。

解説では、(1) 内容項目の概要 と (2) 指導の要点が示されています。
例えば、中学年の「規則の尊重」においては、「約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること」とあり、『**社会のきまり**』が一つキーワードとなっています。この段階では、身近な生活の中で、約束や社会のきまりと公共物や公共の場所との関わりについて考えることが少ないことを踏まえ、指導に当たっては、約束や社会のきまりの意義やよさについて理解し、それらを守るように指導していくことが大切です。



2. 指導内容(内容項目)やねらいに関わる児童生徒の実態を明らかにする



本時の道徳科の授業では、児童生徒の実態に基づき、どの**道徳性の諸様相**に焦点を当てて授業をするのか決めるようにします。

「きまりを守る」ことについて、今の児童の現状を把握します。これまでの教育活動や指導場面を振り返り、その結果として、児童のよさや課題を確認します。
例えば、「きまりは生活の自由を制限するもので、肯定的に受け止められていない」という実態があるならば、ねらいは、「きまりを守ることが、みんなが気持ちよく生活できるようになることに気付かせ、社会のきまりを守ろうとする**心情を育てる**」等が考えられます。
あるいは「周囲に目が向けられず、自己中心的な言動により、きまりが守られていない」という実態があるならば、ねらいは、「きまりの意義を理解し、みんなのことや周りの状況を考えて、きまりを守ろうとする**判断力を育てる**」等が考えられます。
このように児童の実態を把握することで、本時で学ばせたいことが明確になってきます。

学校教育における道徳性の捉え方(道徳性の諸様相)

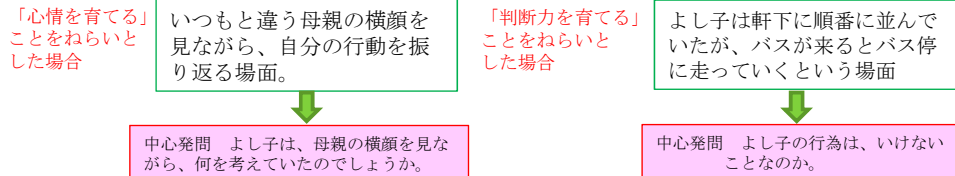
道徳的判断力	それぞれの場面で善悪を判断する能力
道徳的心情	道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪をにくむ感情
道徳的实践意欲	道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし、道徳的価値を実現しようとする意志の働き
道徳的態度	道徳的判断力や道徳的心情に裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え

3. 教材を吟味する……児童生徒に考えさせたい道徳的価値に関わる事項を検討



読み物教材では、道徳的価値に関わるどんな問題が起きているのか、その出来事に道徳的価値がどのように関わっているのかをとらえ、ねらいに関わって、児童生徒に一番考えさせたい場面を想定し、発問等を考えます。

ねらいとする道徳的価値(規則の尊重)についての、授業者の明確な意図、児童生徒の実態をもとに、教材「雨のバスの停留所」をどのように活用し、どのような学習を行うのかを明らかにします。



※次ページでは、「心情を育てる」ことをねらいとした学習展開の例を示しています。

4. 学習指導過程を作成する(新大分スタンダードとの関係も含む)

1～3を通して、指導の意図が明確になったら、授業の指導の流れ(学習指導過程)を考えていきます。

学習の段階	学習活動や主な発問
導入	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の興味関心を高め、ねらいとする道徳的価値に向けて動機付けを図る段階 <p>○実態や問題を知る めあて きまりやマナーについて考えよう</p>
展開	<ul style="list-style-type: none"> ねらいを達成するための中心となる段階 中心的な教材によって、ねらいとする道徳的価値についてじっくり考える段階 ねらいに対する思いや願い、課題を培うために、現在の自分を見つめる(設定しない場合も考えられる) <p>○教材を活用して道徳的価値を理解し、よりよい生き方を考える</p> <p>中心発問につなげるための基本発問 よし子は、どんな気持ちでバス停にかけよったのでしょうか。</p> <p>中心発問 よし子は、母親の横顔を見ながら、何を考えていたのでしょうか。</p> <p>※児童の考えを深めたり広げたりする補助発問を準備しておく</p> <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 世の中には目に見えないきまりやマナーがあることについて 周りの人の気持ちを考えながら行動することの大切さについて
終末	<ul style="list-style-type: none"> ねらいに対する自分なりの思いをあたためたり、更に深く心にとめたりして、今後の発展につなぐ段階 <p>○よりよい生き方の実現への思いや願いを深める</p> <p>振り返り みんなのことを考えて約束やきまりを守っているか振り返ろう</p>

※学習指導過程にあるめあてや中心発問(課題)、まとめ、振り返り等は、一例です。



ねらい、実態、教材、学習指導過程に応じて、適切な指導方法を選択し、工夫しましょう。

教材を提示する工夫(例)

お話の読み聞かせをする前に登場人物や状況などを少し説明しておくと、児童は理解しやすくなります。

バスを待つ乗客は、のき下で雨宿り

話し合いの工夫(例)

きまりは何のためにあるのか? グループで話し合おう!

「NITSオンライン研修(道徳教指導者養成研修)」資料より

5. 本時において、期待する児童生徒の学習状況を明確にする(評価の着眼点)

道徳科の評価は、道徳性が育ったかどうかを評価するものではありません。道徳性につながっていくような学習状況がみられたかどうかを把握します。学習状況とは、道徳科の目標に示されている学習活動における児童の発言や記述等のことです。本時における期待する学習状況を明確にし、評価の着眼点を設定しましょう。

【ねらいの構造】 ※特に決められませんが、次の3つの要素で書くことが考えられます。
「学習の中心的内容」…母親の横顔をじっと見つめるよし子について
「学習活動」……自分事として考えたり、善し悪しを判断したりする学習活動を通して;
「道徳性諸様相」……きまりやマナーを守ろうとする心情を育てる。

ねらいの3つの要素のうち「学習活動」の部分を評価の着眼点にします。

【評価の着眼点】
よし子の行為について、自分事として考えたり、きまりやマナーを様々な視点から発言したりしている。

【評価の方法】(いつ、どのようにして)
・グループ学習の様子や全体での発言から見取っていく。(机間指導と意図的指名) ・ワークシートの記述から見取っていく。



早わかり！ 単元計画の作成手順

～小学校 総合的な学習の時間 第4学年 「川的美しさを取り戻そう」を例にして～

1. 単元の目標を作成する

各学校の総合的な学習の時間の目標及び内容は、学習指導要領が定める目標を踏まえて定めるとされ、各学校の全体計画に明記しています。この「内容のまとめり」を踏まえて具体的な学習対象や学習活動を定め、教師が意図やねらいをもって作成するのが単元計画です。ここでは、住吉川の問題とそれに関わる人々を学習対象として単元計画を作成しています。

【A小学校における総合的な学習の時間における内容のまとめり(例)】

探究課題	内容のまとめり		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
そこに生きる環境とそこに起きている環境問題	・生物はその周辺の環境と関わって生きていることを理解する。 ・調査活動を、目的や対象に応じた適切で実施することができる。	・地域の自然環境への関わりを通して感じた関心をもとに課題をつくり、解決の見通しをもつことができる。 ・課題の解決に必要な情報を、手段を選択して多様に収集し、種類に合わせて整理することができる。 ・課題解決に向けて、観念に合わせて相手や目的に応じて、分かりやすく表現することができる。	・課題解決に向け、自分のよさに気づき、探究活動に進んで取り組もうとする。 ・自分と違う意見や考えのよさを生かしながら、協働して学び合おうとする。 ・地域との関わりの中で自分ができることを見つけようとする。

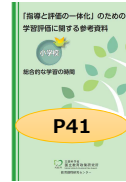
(1) 「内容のまとめり」をもとに、単元全体を見通して、単元の目標を作成する。

①住吉川の問題について調べたり、その保全に向けた活動に協働して取り組んだりすることを通して、②環境保全に関する具体的な取組について考え、③環境を守る活動続ける人々や組織の意図や願いを理解するとともに、④住吉川とのつながりを意識しながら行動したり生活したりできるようにする。



この例では、4つの要素を構造的に配列して作成しています。

- ①探究課題を踏まえた単元において 中心となる学習対象や学習活動
- ②単元において重視する「知識及び技能」
- ③単元において重視する「思考力、判断力、表現力等」
- ④単元において重視する「学びに向かう力、人間性等」



2. 単元の評価規準を作成する

(2) 「内容のまとめり」ごとの評価規準をもとに、具体的な学習活動における目指すべき児童の学習の姿を想定し、単元の評価規準を作成する。



単元の評価規準を作成する際には、単元で行う学習活動やどのような資質・能力を重視するかによって、具体的に記述することが求められます。

【単元の評価規準】(例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①住吉川には、独自の特徴があることを理解するとともに、その環境を後世に残していこうと活動している人や組織の存在、思いに気付いている。	①住吉川の上流と中・下流の様子の比較から、河川の状況と生物との関わりについて課題を設定するとともに、解決に必要な調査方法を明確にしながらフィールドワークの計画を立てている。	①住吉川とそこに住む生物の関係を明らかにするという目的に向け、自分自身で設定した課題の価値を理解している。
②住吉川にすむ生物の状況を捉えるために、生物種や生息環境に応じた方法でフィールドワークを実施している。	②住吉川の現状をよりよく理解するために必要な情報を、調査する対象に応じた方法を選びながら収集している。	②自分と異なる意見や考えを生かしながら、協働的に探究活動に取り組んでいる。
③住吉川の問題と自分たちの生活には関連があると理解できるのは、川とそこに生息する生き物との関係を探的に学習してきたことの結果であると気付いている。	③住吉川の問題と自分たちの生活には関連があると理解できるのは、川とそこに生息する生き物との関係を探的に学習してきたことの結果であると気付いている。	③自分と川や地域の人々等とのつながりに気づき、地域の活動に参加するとともに、地域のためにできることを考え行動している。
	④川の問題と自分たちの生活には関連があると理解できるのは、川とそこに生息する生き物との関係を探的に学習してきたことの結果であると気付いている。	

3. 指導と評価の計画を作成する

「単元の評価規準」の指導計画への位置付けについては、総合的な評価を行うためにも、児童の姿となって表れやすい場面、全ての児童を見取りやすい場面を選定することが大切です。

総合



【指導と評価の計画(全70時間)】の例

小単元名	ねらい・学習活動	知	思	態	備考(評価方法)
1 住吉川の様子をさぐる。(15時間)	・川の中流、下流、上流のそれぞれを探検し、それぞれの特徴をまとめる。 ・ホテルがある上流の様子と、油や泡、ゴミなどがある中・下流の様子を比較する。 ・比較から生じたギャップから問題状況を捉え、「川的美しさを取り戻そう」という単元を通した課題を設定する。			①	・行動観察 ・記録シート ・発言内容 ・課題カード
2 住吉川的美しさを取り戻すための活動を考える。(35時間)	・川的美しさを取り戻すための活動を進めるために、必要な情報を川の調査や周辺住民へのインタビューから集める。 ・川の環境を守る取組を進めている「ホテルを増やす会」の人の話を聞く。 ・調査したことや聞いたこと等を整理して、川的美しさを取り戻すための具体的な活動を考える。 ・川的美しさを取り戻すために考えた活動を実行する。	②	②	③	・行動観察 ・調査シート ・発言内容 ・表現物 ・行動観察 ・取組カード
3 地域とともに活動を行い、これからの自分たちの行動について考えよう。(20時間)	・様々な人や組織が住吉川の問題に関わっていることを振り返る。 ・地域の人に川への関心を高めようとするための活動を企画する。 ・家庭でできる川を汚さない方法を伝える、川掃除会を開催する、「ホテルを増やす会」の活動に参加するなど、実行に向けた準備を進める。 ・今後の自分たちと地域との関わりや環境との関わりについて、これまでの活動を振り返ってまとめる。	①		③	・発言内容 ・振り返りカード ・発言内容 ・ワークシート ・発言内容 ・ワークシート ・発言内容 ・作文カード

4. 単元の指導計画(指導と評価の計画)をもとに、本時の評価規準を具体的に作る



地域の住吉川を探検する体験活動を通して、子どもたちが川の問題状況を把握し、そこでの気づきを出し合い共有する中で、自分たちが解決を目指す課題をつくり出すことをねらった場面の評価について考えてみます。

評価規準「思考・判断・表現①」

住吉川の上流と中・下流の様子の比較から、河川の状況と生物との関わりについて課題を設定するとともに、解決に必要な調査方法を明確にしながフィールドワークの計画を立てている。

探検を実施

【A児の課題カードの記述】

住吉川を歩いていると、油がういていたり、まわりにゴミが落ちていたりして、よごれていることが分かりました。別の日に、家の人や友達、先生といっしょに川の上流に行ってみました。すると、たくさんのホテルが飛んでいました。そこにはホテルのほかにいろいろな生き物がいました。川の上の方にだけホテルがいたので、ホテルはどんなところに住んでいるのだらうと思いました。

A児は、住吉川を探検を通して川が汚れている状況を捉えています。さらに、川の上流ではホテルが見られたことから、生き物の存在をもとに川の状態の違いを捉えています。川やホテルの様子について興味をもち始めた段階ですが、「河川の状況と生物との関わりについて課題をつくりだした」段階には至っていません。多くの児童でこのような学習状況が見られたことから、後日、ホテルの生態を調べる学習活動を設定することとしました。

児童の学習状況から単元計画を変更し、ホテルの生態について調べる学習活動を設定

【A児の課題カードの記述(振り返り)】

ぼくたちはホテルが住む場所や食べ物などについて調べました。ホテルの幼虫はカワナを食べます。このカワナがきれいな川の底に住んでいることが分かりました。たんけんした川に近い、川をきれいに活動をしている人たちがいることがわかる看板がありました。また、「ホテルを増やす会」があることも分かりました。ぼくも、ホテルをもっと増やすことができるように、よれている今の住吉川を自分たちの力できれいにするためにできることをやってみよう、と思いました。そのためには、ホテルが住んでいる場所とそうでない場所の違いをもっと詳しく調べてはなりません。ぼくは、えさになるカワナが住んでいる場所の水温や川底の様子について調べると、ホテルとの関係が分かると思うので、調べようと思います。



期待する児童の姿に迫るための学習活動を設定するとともに、児童の発言や振り返りなどから、学習状況を把握することが大切です。

早わかり！単元計画の作成手順

～学級活動 議題 第5学年「がんばったね集会をしよう」を例にして～

1. 指導内容(指導事項)を確認する ……「学習指導要領解説」を読みましょう！

◇内容・議題を定める

学級活動(1) 「学級や学校における生活づくりへの参画」
議題 第5学年「がんばったね集会をしよう」

学級活動の内容は3つありますね。

- (1)学級や学校における生活づくりへの参画
- (2)日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
- (3)一人一人のキャリア形成と自己実現 です。

学級活動(1)は「議題」に基づいて学級全体の「合意形成」を、
学級活動(2)(3)は「題材」に基づいて一人一人の「意思決定」を
目指しましょう。

2. 単元の目標を設定する ……単元でどんな力をつけるのか明確にしましょう！

◇学級活動(1)で育成を目指す資質・能力を確認する。

- 学級や学校の生活上の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けるようにする。
- 学級や学校の生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができるようにする。
- 生活上の諸問題の解決や、協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。

3. 内容の評価規準を設定する ……評価のための判断のよりどころを決めよう！

◇内容のまとめりごとの評価規準を各学校で定めておく

学級活動(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」の評価の観点と規準の例

第5学年及び第6学年の評価規準

評価の観点	よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
評価規準	みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。合意形成の手順や深まりのある話し合いの進め方を理解し、活動の方法を身に付けている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について多様な意見のよさを生かして合意形成を図り、信頼し支え合っ実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、見通しをもったり、振り返ったりしながら、自己のよさを発揮し、役割や責任を果たして集団活動に取り組もうとしている。



特別活動においては、特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、設置者ではなく、「各学校で評価の観点を定める」としています。

各学校で定めた「評価の観点」に基づいて、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成するとともに、全教職員で共有することが大切です。

4. 指導と評価の計画を作成する

特別活動自体は他教科のような単元計画というものではなく、年間を見据えた学校行事や学級活動と関連付けて、「事前・本時・事後」の一連の活動と評価計画をつくるのが望ましいですね。

特活

第5学年〇組 学級活動(1)指導案

〇年〇月〇日(〇)第〇校時
指導者 教諭 〇〇 〇〇

- 1 議題「がんばったね集会をしよう」
学級活動(1)ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
- 2 議題について
(1)児童の実態(略) (2)議題選定の理由(略) (参考)「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料(小学校特別活動)P44」
- 3 第5学年及び第6学年の評価規準(略) (国立教育政策研究所)
- 4 事前の活動

日時	学習活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】(評価方法)
〇月 〇日 帰りの会	・提案ポストの議題の中から計画委員会で選定した議題を決定する。	・計画委員会で選定した議題案をもとに、学級全員で決定する。	◎がんばったね集会への見通しをもち、意欲的に取り組もうとしている。【主体的態度】(学級会ノート)
(中略)			
〇月 〇日 昼休み	・学級会ノートに目を通し、書かれた意見を整理する。(計画委員会)	・学級全員が書いた学級会ノートに書かれた意見の中から話し合いの見通しがもてるように助言する。必要に応じて短冊に記入する。 ・学級会ノートに励ましの言葉等を記入し、話し合いの意欲を高める。	◎友達のがんばりを認め合うことができる集会の内容を学級会ノートに書いている。【思考・判断・表現】(観察・学級会ノート)

- 5 本時の展開
(1)本時のねらい 1年間の互いのがんばりを認め合う楽しい「がんばったね集会」をするために、集会の内容を考えることができるようにする。
(2)児童の活動計画(略)
(3)指導計画

話し合いの順序	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】(評価方法)
1はじめの言葉 2計画委員の自己紹介 3議題の確認 4提案理由 5決まっていることの確認	・めあてをもって自分の役割に臨めるようにする。 ・提案者の思いや願いを全員が理解し、学級全員の問題であることを確認する。 <話し合いのめあて> 「がんばったことを振り返ることができる集会の内容と工夫を考えよう。」	
6話し合い	・司会が進行に困った時は方向性を示唆し、児童の合意形成を方向付けるような助言はしない。 ・自治的活動の範囲を超えそうな場合は、適切に助言する。 ・必要に応じて納得した上で、自分の意見を変えるなど折り合いをつけて合意形成を図ることの大切さを助言する。	◎これまでの集会活動の経験を生かしたり、友だちの意見のよさを生かしたりして、がんばったね集会の内容や工夫について考え、友だちの意見と比べて聞いたりしている。【思考・判断・表現】(発言・観察)
7決まったことの発表 8話し合いの振り返り 9先生の話 10おわりの言葉	・よかった点や課題について自己評価し、友だちのよかった点などについて相互評価できるように助言する。 ・終末の助言では、前回の話し合いと比べてよかった点、合意形成したことへの価値付けや称賛、計画委員へのねぎらいなどを述べる。	

- 6 事後の活動
がんばったね集会を行い、一連の活動を振り返り、自己評価をさせる。

特別活動では、学級担任以外の教師も指導を行いますから、多面的・総合的に評価をするとともに、本時だけでな事前・本時・事後の一連の学習過程の中で評価できるようにしたり、一定期間に実施した学級活動や学校行事を評価規準に基づき、十分満足できる状況のときに指導要録に「〇」を付けましょう。